

# 今年の演目 猩々

## 猩々とは

わめいるいしゅしょう

承平年間(931~938年)に出来た、※1「和名類聚抄」に掲載されていました。しかし、日本にいつ伝わってきたかは、分かっていません。室町時代の中期までは「猩々は酒好きで赤ら顔であり人の言葉をしゃべるが、しょせん猿に似た愚かな動物に過ぎない」というイメージがありました。

※1 昔の辞書です

## 一言メモ

演目名になっている猩々は、水上に乱舞する、酒好きの妖精です。



猩々です

## もっとくわしく...

中国のかね金山のふもとに**高風**という大変、親孝行な青年が住んでいました。ある晩のこと高風は揚子の市で、お酒を売ると富み栄えることができるという夢を見ました。**夢のお告げに従って**、お酒を商売すると、高風は、**次第にお金持ちになりました**。

ある日、市で不思議な事がありました。いつも高風からお酒を買い求めて飲む者がいましたが、**いくら酒を飲んでも顔色が変わることがありません**。高風が、不思議に思い、名を尋ねると**海中にすむ猩々だと名乗りました**。高風は猩々が現れるのを待っていました。そこへ、**赤い顔の猩々**が現れました。猩々は、友の高風に会えた喜びを語り、酒を飲み、舞を舞いました。そして、素直な高風を称え、今までの、酒のお礼を**飲めども尽きない、酒の泉が、わく壺をおくった**うえで、酔いのままに臥します。それは、高風の夢の中の出来事でしたが、酒壺はそのまま残り、**高風の家は長く栄えた**といえます。

引用 「猩々って何？猩々の伝承について」 「能・演目辞典：猩々：あらすじ・みどころ -」  
「和漢三才図会」 (最終閲覧日：2020年2月13日)